日本はなぜ太平洋戦争を決意したのか

国力の差

その当時、 日本とアメリカとのあいだには、下表のように、国力に、大きな差がありました。日本はアメリカよりも、工業化がはるかにおくれた社会であったことがわかります。

日本を 1 として比べると

	アメリカ
国民総生産	11.8 倍
鉄生産力	12.1 倍
石油産油量	776.8 倍
自動車保有台数	160.8 倍
人　口	1.9 倍
国家予算	3.4 倍
軍事予算	2.1 倍

軍事力の差

国力のおとる日本が、軍部の強硬派にひきずられたとはいえ、なぜアメリカとの戦争を決意したのでしょうか。

理由の 1 つは、日中戦争以降、将来予想される対米戦、対ソ戦に備えて、軍備の増強をつづけてきました。 その結果、太平洋地域では、アメリカをやや上回る軍事力になっていました。

もし、それだけの軍備をもっていなければ、国力でおとる日本がアメリカとの戦争を決意することはなかったでしょう。

	日　本	アメリカ
陸軍兵力	212 万人	160 万人
軍艦総トン数	98 万トン	143 万トン

アメリカ海軍はドイツとの戦争に備え、兵力の半分を大西洋に配備していたため、太平洋では日本海軍が、やや優勢でした。

『語り伝えるアジア・太平洋戦争』 2・3 巻（新日本出版社）参照

短期戦の幻想

さすがに、日本政府や軍部も、戦争が長引けば、 アメリカが軍拡に本腰を入れ、国力のおとる日本が不利になることはわかっていました。

しかし、その当時は、日本の軍事力が優勢だったため、短期間でアメリカの主力部隊に壊滅的な打撃を与えれば、アメリカに勝てるという考え方がうまれてきたのです。

ただし、この短期戦で戦争を終わらせることができるという判断には、1 つの大きな前提がありました。それは、ドイツの攻撃によって、イギリスがすぐに降伏し、その結果、アメリカの戦意がゆらぐという見通しでした。しかし、アジア太平洋戦争が始まる前に、すでにドイツはイギリス本土上陸作戦を断念せざるを得ない状況にありました。

山本五十六元帥

アメリカでの長期滞在で山本五十六は、誰よりも日本とアメリカとの国力の差、軍事力の差を熟知していました。

そこで海軍軍人である山本五十六は、日本がアメリカに勝つためには、アメリカ艦隊の主力部隊の基地であるハワイの真珠湾奇襲攻撃で壊滅させる作戦しかないと主張したのです。 山本五十六の考えも、当時軍部にあった「短期戦」に与（くみ）したものでした。